

伊賀市美術博物館基本構想（中間案）パブリックコメントへの回答

意見数：33名（うちweb利用31名） 106件

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
1	全体	委員会	<p>一般論に終始しており、委員会の議論が熟していないことが表れています。大切なところですので、早期作成だけを目指すのではなく、美術館・博物館の現代と近い将来における位置づけについての知見を委員間で忌憚なく意見出しをしていただき、その上で伊賀の歴史や風土、芭蕉他郷土ゆかりの偉人に関する顕彰の意義について、委員会での突っ込んだ議論をしていただきたいと思います。その上で、一定の合意に達したものを市民に示していただきたいと思います。文句をつけられないよう、早くまとめられるように、一般論に逃げてしまうと、のちのちの迷走を生むことにつながります。</p>	<p>美術博物館建設のプロセスにおいて、基本構想とは、具体的なご意見の背景にある考え方や方向性等を取りまとめながら、今後の事業の大枠に関係する内容を示すものと考えます。施設規模、企画展示や活動等の詳細・具体的な内容についてのご意見は、基本計画や設計の段階において活用させていただきますこととなります。</p> <p>なお、基本計画以降の各段階においても、幅広く市民等からご意見をいただきたいと思いますと考えています。</p>	
2		管理運営	<p>伊賀市の財源で、きちんとした形の美術博物館の運営ができるのか、これまでの施設のようにただの『保管場所』にならないか懸念されます。国宝重要文化財など見どころ集客になるアイテムはあるのか？または借りてこられるのか？それだけの資金や人脈はあるのか？ただ古いものを延々展示しているだけの美術博物館はいりません。やはり『企画展』がモノを言います。常設展と企画展をどのようにお考えか。また伊賀焼や組紐などの地元伝統工芸の組合長がなぜ入っていないのですか？有力なキュレーターのツテはあるのですか？広報は？知りたいことがいっぱいです。</p>	<p>美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	
3	1ページ 全体	既存施設の利用	<p>旧の箱(例えば、ふるさと会館いが)を廃止して、新たな箱を作る必要は無い。旧の箱の活用で充分。 ITの活用で、箱が分散していても対応可能では？</p>	<p>各公共施設は、公共施設最適化計画に基づき廃止、再編（集約化・複合化）等を決定します。また、持続可能な施設とするため、展示環境、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等の観点から、機能を分散することは適切でないと考えます。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
4		子ども施策	<p>本当に美術館は必要なのでしょうか？</p> <p>小さい子どもと一緒に美術館に行こうとは、正直思いません。</p> <p>一度見て、それっきりになりませんか？</p> <p>美術館に使うお金、伊賀市の明るい未来の為に、子どもたちに使っていただけませんか？</p>	<p>市では、「こども、暮らし、にぎわい。」を中心に各種施策を展開しています。特に、子ども・子育て施策については、未来の伊賀市民への投資を進める「子どもは伊賀の宝」という考えのもと、こどもファーストを推し進め、子育てしやすいまちづくりの実現をめざしています。</p> <p>美術博物館も、子ども達が文化芸術に触れることは、豊かな人間性を育む礎となり、優れたものや芸術的なもの、そして様々な歴史文化に触れることで、想像力、表現力、多様性などが育まれるという考えのもと、子ども達の未来への投資として、文化芸術を五感で感じ感性や心の豊かさを育む場をめざします。</p>	
5	1 ページ 芭蕉翁記念館の機能を含む美術博物館	施設集約	<p>芭蕉翁記念館、美術館、博物館をひとまとめにする構想は巨大な建造物を想像してしまいます。果たして伊賀市の人口規模で維持できるのか危惧します。想定されるサイズが示されていないので市民の受け取り方が様々。中間案といえどもある程度の規模を提示すべきでしょう。</p> <p>ネーミングはどんな人にもインパクトがあり理解されやすいものを。先例を挙げれば「松山市立子規記念館」は正岡子規の名前を冠しながら愛媛県の古代からの歴史博物館の内容や子規と親交のあった夏目漱石に関する展示があります。「美術博物館」という汎用性のない理解困難な名称を排して「美術館」の意味も「博物館」の意味もあるミュージアムを用いて「芭蕉翁生誕地ミュージアム」の名称を提案します。</p>	<p>美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p> <p>なお、「美術博物館」との名称は、伊賀市美術博物館建設準備委員会設置条例に規定する名称であります。このことから、施設名称（ネーミング）については、今後検討していく事項となります。</p>	
6	1 ページ	その他	<p>今後建設計画が本格化してきたら自家用組合側の土手の補強工事も検討したいと思う思います。</p> <p>現状土手の竹、木が伸び風の強い日や台風の時等落ち葉が近隣住宅の屋根トコに詰まり苦情が出てます。</p> <p>また高い木に鳥が巣を作ってゴミ収集場所を荒らすと言った被害も出てます。</p> <p>市教育委員課からは予算をとって木、竹の伐採を進めて行きますと聞いてますがそのへんも考慮していただくよろしくお願いします。</p>	<p>桃青中学校跡に建設するとなった場合は、別途庁内で検討していきます。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
7	1 ページ	展示計画	世界中どこの街に行っても、その街の歴史や文化を知るための施設はあるのに伊賀にはない。他より優れた文化遺産がありながら発信する拠点がないため、知られていない。芭蕉の生誕地であることとか、観阿弥のこと、古伊賀のことなど、市民でさえも知らない人がいるのは残念。大きな観光資源ともなりうる。近現代でも、榊莫山、元永定正、横光利一、岸宏子などを常設展示すべきだと思う。	美術博物館は、松尾芭蕉の生誕地が伊賀市であることや、伊賀の豊かな歴史文化について、市民の方には地域のことを知る取り組み、市外の方には認知度を高める取り組みを行います。ご指摘いただいたご意見は、今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
8	1 ページ	子ども施策	新しく美術館を建設する費用があるのであれば子供を増やす為の市政を取って欲しい。	市では、「こども、くらし、にぎわい。」を中心に各種施策を展開しています。特に、子ども・子育て施策については、未来の伊賀市民への投資を進める「子どもは伊賀の宝」という考えのもと、こどもファーストを推し進め、子育てしやすいまちづくりの実現をめざしています。 美術博物館も、子ども達が文化芸術に触れることは、豊かな人間性を育む礎となり、優れたものや芸術的なもの、そして様々な歴史文化に触れることで、想像力、表現力、多様性などが育まれるという考えのもと、子ども達の未来への投資として、文化芸術を五感で感じ感性や心の豊かさを育む場をめざします。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
9	2ページ 芸術の町として全国に誇る芸術家を数多く輩出していたことについて	展示計画	<p>私は、以前から生まれ育った伊賀市に市内外の人が訪れる美術博物館を望んできました。</p> <p>松尾芭蕉は、子どもの頃から親しみがあり、世界に誇れる人物で、その施設をつくることに賛成です。</p> <p>芭蕉さんだけでなく、記されている通り、伊賀には過去から現在まで、数多い文化芸術家が輩出されています。</p> <p>また、文化芸術界だけでなく、それらを活かした産業や、建築物や伊賀線など先人が尽力してくれた遺産も多くあります。高久甚之助氏など、社会に貢献した人も何人もおられます。</p> <p>それに、豊かな自然があったからこそ 心豊かな人々や産物に溢れているように思います。</p> <p>そうした伊賀縁の人物、もの、事柄、歴史などを幅広く知れる場所、伊賀の隅々まで丸ごと知れる場所としての美術博物館にしてほしいです。</p> <p>例えば、時系や分類などで区切った大きな立体の年表のような形で、伊賀の文化や産業や偉人などの歴史を紹介してもらえたら、</p> <p>また、伊賀限定の大河ドラマや朝ドラのような主人公を模して、ある人物や団体などを年間や月間の特集にした展示を行ってもらえたらなど、様々な発想を望んでいます。</p> <p>市民の意見や希望も、無記名の意見箱や募集などで取り入れてください。</p> <p>各々は、ささやかな展示でも、それらを知ること、何か関心を持った人物や事柄などを図書館などで、自分で調べることができます。</p> <p>そうした繋がりができ、伊賀のことを知る人が市内外に増えると思います。</p>	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
10	3ページ	建設候補地	<p>図書館移動の際、美術館も旧市役所に併設し運営する案は出なかったのでしょうか。</p> <p>駐車場も広いので多くの人に利用してもらえます。</p> <p>図書館スペースに余裕があるのであれば今からでも美術館も併設できないか検討すべきと考えます。税金、物価がどんどん上がり給料が上がらず日々の暮らしが厳しい我々の血税を使つての事業です。</p> <p>旧市役所に新たに整備する図書館と併設出来ないのであれば少しでも出費を抑えるため、既存のある箱モノを利用すべきと考えます。美術品を保管するということですので旧図書館を利用するのがベターではないでしょうか。繊細な本を今まで保管していた設備が利用できるのです。</p>	<p>旧上野庁舎に関する事業は、伊賀市賑わい忍者回廊整備に関するPFI事業として、令和4年9月30日にPFI事業契約が議会の議決により成立しました。この契約をもって、事業権が事業者に移行しました。設計、建設（改修）、運営、維持管理などは本事業者が実施することとなったことから、ご指摘いただいた併設等への計画変更はできません。</p> <p>また、旧上野図書館は、築40年と老朽化が進んでいるため、保存環境としては十分でないと考えます。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
11	3ページ 新芭蕉翁記念館の建設に係る検討 ※下段の解説欄・最終行	検討経過	平成10年、同21年及び同25年の答申は、行政から諮問しながら、受けた答申を具体化しなかったことについての反省が述べられていない。検討するには、それなりに時間や経費をかけたのに結果としてムダにならなかったのか？ (財)芭蕉顕彰会→(財)芭蕉翁顕彰会に訂正を	当時の検討内容をもとに博物館・美術館を加え、現状に則した見直しを行いながら検討を進めます。 「(財)芭蕉翁顕彰会」に訂正します。	○
12	4ページ 美術館建設に係る動き	市民参加	2006年、2014年の市民の動きや市議会の請願採択は軽視することはできませんが、その後10年以上が経ち、市の人口や財政の将来について、市民と共有している課題意識が異なっています。長年陳情や請願を預かったままにしてあったのは市です。2024年の状況認識に立って、美術博物館建設に関し、再度市民に必要な性の説明と合意形成が必要です。そのプロセスについても、基本構想として織り込むべきです。	市では、「誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出」や「施設の整備・有効活用により文化芸術環境を整える」ことを基本方針とする伊賀市文化振興条例を2019年に制定しました。また同年に「文化振興ビジョン」を策定し、2021年には「文化振興プラン」を策定しました。この基本方針を具体化するため、美術作品、文化財、芭蕉等俳諧関係資料を適切に保管するとともに、収集、研究、公開、継承するための美術博物館の整備を進めることとしました。なお、市民との合意形成のプロセスについては、自治基本条例に規定する「市民参加の権利と責務」、「市民参加の制度保障」に則した計画等の策定に努めています。	
13	4ページ 持続可能なまちづくりに貢献する「ひろがる未来への拠点」をめざすことについて	展示計画	先にも記しましたが、伊賀に文化の歴史が流れているのは、町文化だけでなく、市全体に豊かな自然があってこそだと思います。 この自然環境がなかったら、芭蕉さんの感性も培われなかったかも知れません。先人が代々壊さずに遺してくれた、伊賀の大きな財産でもある、自然環境や景観が、昨今足早に失われています。山間部や河川などに対して、持続可能とは逆、世界の方向とは逆の開発をしているように思えます。 そのことが、結果的に様々な面で、将来によい影響を与えるように思えません。失うと取り返しがつかないので、これ以上自然を壊さずに、かつ経済的にも皆が豊かな道を歩める手段をこれからの子どもたちが、探って、考えて、賢く成し得ることができるよう、 また、文化芸術も、自分たちの暮らしも、全て自然と繋がり、自分もその一部であると、学べるような展示をしてください。大人も同時に学べると思います。	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、ご指摘いただいた自然分野の取り組みについてのご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
14	4 ページ 資料館の統廃合について	類似施設	資料館に限らず、旧郡部の施設は、統廃合が進むばかりではと、旧上野に住んでいても感じています。 伊賀市の六つの地域は、どの地域にも、それぞれの特徴があり、微妙な文化の違いなどもあり、興味深く感じています。 資料館など、統廃合したものは元に戻すのは不可能かと思いますが、これ以上何事も統廃合を進めるのではなく、各地域毎にミニ美術博物館のようなものを分散させたり、展示を巡回させたりした工夫や配慮はできないものかと、理想ですが考えます。 せめて、今回の美術博物館に、これまでの資料のことも含め、他にもいろんなテーマで、六つの地域のことをそれぞれ知ってもらえるスペースがあればと思います。	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、ご指摘いただいたそれぞれの地域の歴史文化の特性などのご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
15	4 ページ 資料館の統廃合	類似施設	上野市歴史民俗資料館、柘植歴史民俗資料館、伊賀・信楽古陶館、伊賀越資料館の閉（休）館は、「伊賀市の魅力発信」に逆行した措置ではなかったか？耐震強度が不足なら補強改修という選択肢も有ったのではなかったか？	施設の老朽化や貴重な資料を保存するための設備が不十分であったこと等を理由として、類似施設を統廃合する方針或いは公共施設最適化計画等により各資料館等は廃止となりました。時代の流れに則した施設整備が必要であると考えます。	
16	4 ページ 資料館の統廃合	類似施設	各資料館建物の今後の利活用、収集物等の保存等廃止後の機能をどうするかについての方針なく廃止した手順が正しかったのか、市は検証すべきです。資料館の収集物・展示物について、新しい美術博物館にどう取り込むのか、取り込まない部分はどうするのか、方針を決めるべきです。	各資料館の建物については、公共施設最適化計画により廃止となりました。ご指摘のとおり、収蔵されていた資料等の保存活用のため美術博物館が必要であることから、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
17	5 ページ 基本構想の位置づけ	市民参加	自治基本条例の中で、この構想をどう位置付けるかも重要です。あるべき市民の姿、市行政の姿と結び付けて位置づけを認識すべきです。	市民との合意形成のプロセスについては、自治基本条例に規定する「市民参加の権利と責務」、「市民参加の制度保障」を遵守し計画等の策定に努めています。	
18	5, 6 ページ	その他	構想の位置づけで5ページの総合計画が上位概念にあるのはわかるが、6ページの各条例はどのような位置づけになるのか、矢印の方向が何を表しているのか分からない。	冊子を念頭にした作りとなっています。このことから、5～6ページで見開き1ページとなります。	
19	6 ページ	展示計画	伊賀市に市民から寄贈された史料等の文化財もあり、日の当たる場にするため、随時、地元の身近なものとして、美術館の一角に展示し拝観してほしいものです。	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
20	6 ページ※下から2行目	反映	機会を→機会の では？	「機会の」に訂正します。	○
21	7 ページ 地域の魅力を知る機会	委員会	「歴史文化を知る機会」「愛着や誇りを育む機会」「豊かな感性を育む機会」と列記されているが、どのような市民に成長してもらいたいのか、そのためにどのような機会を提供すべきかというところは、基本構想の段階で深く話し合われ、構想に反映される必要があります。今後、学校教育との連携などの計画を立てていくうえでも、その部分の共通認識が必要です。委員会でもっとつっこんだ議論をお願いします。	美術博物館建設のプロセスにおいて、基本構想とは、具体的なご意見の背景にある考え方や方向性等を取りまとめながら、今後の事業の大枠に係る内容を示すものと考えます。施設規模、企画展示や活動等の詳細・具体的な内容についてのご意見は、基本計画や設計の段階において活用させていただくこととなります。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
22	7ページ 伊賀市の豊かな歴史文化の認知	委員会	伊賀市の長く、幅広い、豊かな歴史文化の、どんな点を展示していく必要があるのか、委員会で十分な議論と一定の合意をお願いします。委嘱された各界有識者の方の務めと思います。	〃	
23	7ページ 伊賀市の「現状と課題」全体	委員会	それぞれの課題をすべて、新美術博物館の建設で解決するのか、さまざまな手段の組合せで解決するのか、市が抱える他の課題（中心市街地活性化、周辺部の地域活性化など）との連携で解決する必要があるのか、検討がされておらず、全体に議論が浅い。	〃	
24	7ページ 下から5行目の「既存施設?利用して～大きな課題となっています。」	学芸員	この点は、書かれている通りで、歴史的価値のある工芸品、美術品等を、適切な環境で保管するための十分な性能の保管庫は必要である点には同意する。ただしこれは美術館そのものではなくとも美術品保管庫で良いと考える。全ての収蔵品を常に展示する必要は無いからである。一方学芸員の採用は必要であろう。文化庁や教育委員会その他大学とネットワークを組んで、収蔵品の詳細な分析をするに足る人材を確保することは必要であり、市は県、国の関係性を活用して、その学芸員が調査をすることを最大限助ける必要がある。勿論学芸員による成果の発信は必要だが、日常的な来館者対応にはボランティア等を募り、学芸員は基本的に文化財の研究に集中する環境づくりが必要と史料する。	ご指摘のとおり、学芸員の確保と活動及びサポートスタッフやボランティアスタッフなどとの連携・協働等については美術博物館の機能活動を充実させるためには重要な事項であると考えます。ご指摘いただいたご意見は、今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
25	7ページ 歴史文化遺産を適切に保存する施設の現状	学芸員	学芸員の配置について、どのような分野で何人配置するのか、館長にはどのような人を置き、学芸員や職員の育成についてはどうするのか、基本構想の段階で十分な議論と一定の合意をお願いします。	美術博物館の管理運営に係る人員配置については、今後、基本計画の策定の中で検討します。 なお、館長や学芸員の育成方針等についても、今後、検討する事項と考えます。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
26	7ページ 10代の若者の約60%が一年間に美術館などに一度も行ったことがないことについて	財源	<p>その理由は深く分析されているのでしょうか。</p> <p>経済的、精神的、時間的にそれぞれ余裕がないか、興味関心がない。個人で理由は様々でしょうけれど、若者だけでなく、全世代に共通していると思います。</p> <p>私自身は、先に記したように美術博物館を望んできました。環境的には、余裕のない部類になりますが、美術館が出来た際には、何度も訪れたいと思っています。</p> <p>でも、多くの市民にとっては、特に今の時代、美術館建立とは、多額の税金と、市民の財産である土地を使い、その分の市民サービスが減る恐れがあり、一部の人の欲求を満たすためだけのものと解釈されそうな事業です。周りからも、そうした声も聞きます。</p> <p>また、文化芸術への興味関心は、個人の自由なので、全ての人がそれらに関わる機会を公が設けることは必然としても、多くの市民がそれに応えるとは限りません。芭蕉さんや文化芸術への思いが市民の共通認識のようなアピールが過ぎるのは、かえって賛同を得られにくいとも感じます。特に若者始め、現実が精一杯の人はそうではないでしょうか。</p> <p>でも、スポーツ施設があるように、美術館や図書館などの文化施設は一部の人のためであっても、公の機関として人々に必要不可欠なものとは私は思います。</p> <p>そうした様々な立場や環境や考えの人がいること、にも関わらず、全市民の負担が増えることなどを常に意識や配慮した上で、この計画を進めてほしいです。</p> <p>そして、行政として、今様々な面で余裕のない人が、少しでも余裕を持って、自分の望む余暇を楽しめるように尽力をお願いします。</p>	<p>市民が気軽に芸術や地域の歴史文化に触れることができる場所を創出することは、市民文化の向上やシビックプライドの醸成に不可欠なものと考えます。そのうえで、市の財政規模等を勘案し、美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等について、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
27	7ページ 市民アンケートの結果、10代の若者の約60%がこの1年間に美術作品や文化財を展示する施設に行ったことがないとの回答でした。未来を担う子ども達にとって、「伊賀市の歴史文化を知る機会」、「地域への愛着や誇りを育む機会」、「豊かな感性を育む機会」が不足している状況は大きな問題だと考えます。	市民参加	アンケートによる若者の美術博物館離れは、伊賀市美術博物館が開館した後、彼らに将来この文化施設と地域の文化財を守り継承していただく理解を得る上で改善が必要な課題であると感じています。 その中で、美術博物館の土台となる基本構想を議論する建設準備委員会に次世代を担う10～30代の若手委員がほとんどいないことについては世代間バランス、議論の多様性の観点でも改善していただきたいです。 各分野の若手の学芸員、研究者、クリエイター、地域文化に関心の強い学生等を委員として追加委嘱し、将来に向けて本当に持続可能性のある美術博物館の計画が生まれることを望みます。	ワークショップの開催など、多くの市民の方、特に若い世代の方の意見を取り入れる機会を設けながら基本計画の策定を進めていきたいと考えます。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
28	7ページ 伊賀市の豊かな歴史文化の認知	その他	<p>「市民の心のよりどころとなっている俳聖松尾芭蕉のふるさと」と表現されていますが、旧上野市では従前より、芭蕉さんは「上野の城東・赤坂の街に生まれた」と教えられてきました。これが「心のよりどころ」というものなのでしょう。しかし、旧上野市と旧伊賀町に存在した2つの「芭蕉翁顕彰会」を統合させるために、平成19年3月27日付の覚書で「松尾芭蕉翁の生誕地は伊賀市とする。」としたことにより、市民の特に旧上野市民の「心のよりどころ」に変化が生じたことは確かだと思います。学問的（学界の定説）には、「芭蕉は伊賀上野の赤坂の街に生まれた。ただし生誕地については柘植説もある。」であったのが、政治的に「松尾芭蕉翁の生誕地は伊賀市である。」と結着させたという事実があります。およそ、芭蕉翁の生誕地を民間の任意団体が勝手に決める権利はどこにあるのですか。</p> <p>政治的結着の件はさておき、これで収束すればよれなりに良かったのですが、その後も柘植地域では、以前と同様に印刷物その他で「柘植生誕説」を主張し続けています。「重要なことからであっても、十分に認識されているとはいえません。」の原因のひとつがここにあると考えています。およそ、偉人の生誕地について「〇〇市」とあいまいに表現し、それ以下のことは詮索しないでくださいという態度をとっている自治体は果たして他にあるのでしょうか。仮に異説があるとすれば、それを互いに調査研究を進め、答えを求めることに意義があるのではないだろうか。「伊賀市の未来を担う子ども達」が興味を覚えて「伊賀市のどこ？」と尋ねたら、教育者や大人たちが「そんなこと細かく尋ねたら、あかん」と答えていて、果たしてそれでいいのでしょうか？</p>	松尾芭蕉の生誕地については、江戸時代から上野説と柘植説が伝えられ、それぞれの地で大切に語り継がれてきました。現在、学術上どちらかの説を決定づける歴史的資料は確認されていません。これまで、それぞれの地で取り組まれてきた顕彰活動も踏まえ、地域の魅力を知り、地域への愛情を持ってもらえる取り組みを検討します。	
29	7ページ 歴史文化遺産を適切に保存する施設の現状	寄贈基準	現在伊賀市が所蔵しているもの以外に、他の施設・機関や個人が所蔵しているものの収集や購入、今後の寄付・寄贈の受付について、基本的なポリシーを明確にしてください。市立図書館の貴重書庫所蔵品の取り扱いも併せて検討すべきです。収蔵施設のキャパシティや将来的な維持経費の算定のために、今の段階で具体的に検討することが必要です。	美術作品等の寄附については、採納にかかる基準を設けて受贈手続きを行っています。美術博物館開設に際しては、有識者の意見を求める場を設けるなど、作品等の寄贈の基準を検討していきます。 なお、美術博物館の収蔵庫の規模、展示計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
30	7ページ 「現状と課題」地域の魅力を知る機会について	展示計画	10代の60%が文化施設の利用経験がないということが課題と記載されているが、美術館がないから行かない＝美術館を作れば行くということではなく既存の施設（芭蕉翁記念館をはじめとする文化施設）にて集客力のある企画ができていない／もしくは学校教育などの中で、そのような機会を積極的に設けていない（名張・近隣府県町村含め）など現状なぜそうなっているのかについてももう少し検討してほしい。作っただけで誰も行かない施設になることを危惧しています。	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
31	7ページ 伊賀市の豊かな歴史文化の認知／歴史文化遺産を適切に保存する施設の現状について	展示計画	伊賀市の文化・歴史に多様な要素があることは承知していますが、多くの人の興味を惹くコンテンツが何か見極めたメリハリのある発信ができていないのだと思います。 芭蕉翁に関する資料をただ並べてある展示を遠方から見に来るのはどのような人なのかなど、地元の人ですら訪れない施設を外に発信することは難しいと感じます。芭蕉をテーマにするのであれば俳句という文学の世界そのものを身近に感じられる施設なのか、美術館であれば世界的に評価されている古伊賀や、全国的な知名度のある近現代アート榊莫山、元永定正などを中心にするなど何を発信すべきかを検討してほしい。	〃	
32	7ページ 保存する施設の現状	保存管理	保存施設が不足しているのであれば、新図書館への移転後に空いてくる現図書館を美術博物館完成までの間、保存施設として活用してはどうか。	中心市街地の活性化という観点も踏まえ、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
33	7ページ 歴史文化遺産を適切に保存する施設の現状	保存管理	出土物、民具、美術品、工芸品などさまざまなもののうち、どのようなものを、どのような環境で保管していくかのポリシーを明確にしてください。それが、収蔵施設のキャパシティに影響するため、基本構想の段階で明確にする必要があります。	さまざまな種類の資料の保存環境と保存方法、収蔵庫の規模等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
34	7ページ 歴史文化遺産を適切に保存する施設の「現状の適切に保存管理して」 8ページ 歴史文化遺産の保護の「適切な環境のもとで保存管理し」 10ページ 保存継承の拠点の「適切に保存管理する環境を整備し」 13ページ 伊賀の歴史文化・俳文学の拠点の「保存管理機能」	保存管理	学芸員などソフト面での充実を図るとともに、公共施設最適化計画で唱えられたFMの考え方を取り入れて長寿命化を図ってほしい。現芭蕉翁記念館の雨漏りが著しいが、雨樋の定期清掃、定期的な建物のメンテナンスなど、計画的な修繕計画を施していないのではと考える。 また、多くの美術館で収納スペース不足の問題を抱えていると経産省のレポートに書かれていた。今後、増える資料のことを考えた設計をしてほしい。増殖する建築という考え方もある。専門部会でもんでもらえればよい。	学芸員の配置、収蔵スペースの確保の方法等を含めた美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。 なお、現芭蕉翁記念館の修繕等の計画については、別途庁内で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
35	美術博物館の建設に向けて	保存管理	<p>伊賀市の課題の中に歴史文化を適切に保存する施設が無いとありますが、具体的にどのような状態なのでしょう。</p> <p>「適切な保存環境」と「適切ではない保存環境」というものが市民にわかるように説明してほしいです。</p>	<p>歴史文化に関連する資料である古文書、彫刻、絵画、工芸品等は、紙、絹、木の自然由来のものを素材としており、温湿度の変化や紫外線の影響を受けないようにすることなどが必要です。</p> <p>現状では、温湿度等が保たれた収蔵庫がないことから、貴重な資料を後世に引き継ぐための施設の整備が必要と考えます。</p> <p>7ページ「歴史文化に関連する資料の、古文書、彫刻、絵画、工芸品等は、紙、絹、木など自然由来のものを素材としており、温湿度の変化や紫外線の影響を受けないようにすることなどが必須です。」との一文を設けます。</p>	○
36	<p>8ページ 「美術館の必要性」伊賀市の魅力発信</p> <p>美術博物館は、自然に恵まれた伊賀市の豊かな歴史文化の調査・研究の拠点として、伊賀市の魅力を国内外に向けて積極的に発信します。さらに、訪れた多くの人々に感動を与える施設をめざすことで、リピーターを増やして、地域の賑わいの創出を図ります。</p> <p>特に、俳聖松尾芭蕉を生み育てた伊賀市の認知度を高め、「訪れたいまち」となるよう活動を展開します。</p>	管理運営	<p>誰に向けて発信することが美術館・博物館の役割なのかの検討が必要だと思います。</p> <p>①市民なのか、②近隣自治体（県内、近隣府県の市町村）市民なのか、③全国・海外も含めた③であれば、旅の目的になりうるような施設にならなければいけない＝ハード面（建築など）も知名度が必要①②であれば、ソフト（何度も行きたくくなるような企画や展示が運営できるスタッフの育成、消費活動拠点となるような付帯施設）面での投資が必要どこに重点を置いて、限られた予算を投下すべきか、全国の公立・私立美術博物館の運営状況やコンテンツ、集客状況などをベンチマークに検討いただきたく。また施設建設だけでなく、アートでの発信集客は地域芸術祭との連動なども考えられると思うが、そのあたりまで含めて、伊賀市に、当該施設に、誰をどのように集客するのかを検討をお願いしたい。</p> <p>参考）ハード重視だと思う施設「十和田市現代美術館」「下瀬美術館」付帯施設やイベントなどと連動させることで集客機能を持たせていると思われる施設「不均質な自然と人の美術館（大分県国東市）（※キャンプ場併設）」「弘前れんが美術館（※シードル醸造所併設）」「越後妻有里山現代美術館（新潟県十日町市）※温浴施設・地域交流施設併設／芸術祭連動」</p>	<p>ご指摘のとおり、ターゲティング等のマーケティング戦略は検討が必要と考えます。</p> <p>なお、美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
37	8ページ 美術館の必要性	現芭蕉翁記念館	美術館や新芭蕉翁記念館の建設について以前から要望書が提出されたり検討委員会が設置されたりし様々議論されてきており、その必要性は当然の事として、しかし残る現図書館や現芭蕉翁記念館の利活用を同時に議論し方向性を示しておく必要がある。特に現芭蕉翁記念館の建設に至る経緯やモダニズム建築としての文化財的価値を考慮する必要があるでしょう。	現在の芭蕉翁記念館のモダニズム建築としての価値は十分認識しております。ただし、本構想での検討事項ではないため、現在の建物の利活用等については、別途検討していくこととなります。	
38	8ページ 美術博物館の「必要性」	財源	全体に一般論にすぎません。将来的な財政負担への懸念や美術博物館への期待の個人差（社会教育機関、観光施設、書庫などさまざまな認識と期待があります）を収斂させていくためにも、伊賀市で必要な理由を説得的に記述してください。	美術博物館建設のプロセスにおいて、基本構想とは、具体的なご意見の背景にある考え方や方向性等を取りまとめながら、今後の事業の大枠に関係する内容を示すものと考えます。施設規模、企画展示や活動等の詳細・具体的な内容についてのご意見は、基本計画や設計の段階において活用させていただくこととなります。	
39	8ページ 「美術館の必要性」未来をひらく力、未来を担う子ども達のためについて	財源	P7についても記載したとおり、魅力的なコンテンツがあり、十分な集客施設にならない限り、運営を続けていく限りかえって財政面で未来を担う子供たちにとって負の遺産、負債になる可能性があることを念頭においた検討をお願いしたいと思います。	芸術や歴史文化に触れる機会を創出するための美術博物館を建設するとともに、持続可能な施設となるようにすることも大事であると考えます。美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
40	8ページ 美術博物館の「必要性」	施設集約	1カ所に芭蕉翁記念館・美術館・博物館を集中させることの必要性を、具体的に明確に記述してください。	基本構想においては、1カ所に集約すると記載していませんが、持続可能な施設とするため、美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
41	8ページ	情報発信	歴史文化遺産は現代に生きているものの役割であり、受け継ぐものであると思いません。また、その重要性を発信していくのも重要な責務です。	ご指摘のとおり、伊賀市の歴史文化に関連する資料は、長い歴史の中で大切に受け継がれてきたかけがえのない遺産であることから、将来にわたって引き継いでいくことは重要な責務であると考えます。ご指摘のとおり、この重要性について市民等に周知していくことも大事であると考えます。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
42	8ページ 「必要性」 4項目すべて。中でも4項目目の「収蔵庫を設置して学芸員を適正に配置して」について	展示計画	<p>「必要性」4項目のうち、上から3項目はもっともな内容で異論はないが、抽象的ゆえに強いて挙げた感が拭えません。4項目目の「歴史文化遺産の保護」の収蔵庫と学芸員について、湿度、温度を完璧にコントロールできる収蔵庫こそが美術博物館の中心設備だと考えます。むしろこの計画は収蔵庫建設に絞った方が意義があり必要性があるとも思います。短期間の展示場所は既存の施設でもいいくらいに考えるべきでしょう。</p> <p>「学芸員を適正に配置」とありますが、この計画では多分野の学芸員が必要です。俳諧学(芭蕉研究)、古美術、近現代美術、歴史学(特に中世から近世)、民俗学、考古学(自然科学分野でミエゾウやワニなどの化石も含むならば) など。常勤、非常勤の学芸員を採用するにしてもこれだけの分野をカバーするには大規模ミュージアムが想定されますが、伊賀市の規模から困難だと考えられます。この計画が「欲張り」「総花的」に過ぎるのではないかと危惧します。重点をどこに置くのか明確にしなければどれも中途半端なものになってしまうでしょう。</p>	美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。あわせて、管理運営に係る人員配置についても検討します。	
43	8ページ 美術博物館の「必要性」のうち、歴史文化遺産の保護	展示計画	博物館法改正により、デジタルアーカイブが含まれたため、デジタルアーカイブの必要性を加筆	市所蔵の俳諧資料や郷土資料の一部は既にデジタルアーカイブ化し、「デジタルミュージアム 秘蔵の国伊賀」として公開しています。その利活用については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
44	8ページ	子ども施策	<p>必要性について、伊賀市に美術館は必要ないと思っています。</p> <p>最初に必要性のアンケートを取られたそうですが、市民全般の意見が反映されているとは思えません。学生など回答者に偏りがあると思います。また、建設計画があることを市民の多くが知りません。本当に市民が望んでいるのか検討後、推進していただきたい。</p> <p>市民税は本当に市民が望んでいるところに使ってほしい。</p> <p>美術品の保管が必要であれば、最小限に絞り保管だけをどこかに依頼していただきたい。</p> <p>保育園の待機児童対策など市民に直接影響する課題から対応していただきたい。</p> <p>一度市民全般にアンケートか投票をしていただきたい。わたしの家庭事情ではありますが、美術館は無くても生活は出来ますが、保育園の待機児童となり妻が働けません。周りにもこのような家庭はあります。</p> <p>市民に寄り添った税金の使われ方を望みます。</p>	<p>市民の方に美術博物館の必要性を理解していただくための講演会及びワークショップを開催しながら事業を進めることが大事であると認識しています。</p> <p>美術博物館は、社会教育施設として未来を担う人づくりのため、歴史文化資料を守り将来に引き継いでいくために必要であると考えます。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
45	8ページ 歴史文化遺産の保護の項	保存管理	<p>ここは意見1で書いた通り。ただし後述もするが、保管のための屋内環境が、現有設備の改造では不可能な場合に限り、保管庫の新設の検討をすべき、逆に言うと、現有設備の改造、改善で事足りるのであれば、保管庫を新設する必要は無いと史料する。</p> <p>【意見1】は番号24の意見となります。</p>	<p>芭蕉翁記念館は、1959（昭和34）年に建設されてから60年以上が経過し、施設自体が老朽化しています。また、古文書等の歴史資料や美術工芸作品については、資料の劣化を防ぐよう努めていますが、既存の公共施設を利用しているため、望ましい保管状況とは言えません。</p> <p>美術博物館の収蔵庫の規模等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	
46	9ページ 美術博物館の めざす姿	展示計画	<p>この頁には「伊賀の歴史文化」という文言が多く用いられています。「めざす美術博物館」には、「民俗」（7頁の下から5行目に出ている）や「自然」（地形・地質・気象・気候・植物・動物など）についても意を用いられるのでしょうか？これも「伊賀の歴史文化」の範疇だと考えますが。かつて伊賀の植物研究者の採集した標本が数多く三重県立博物館に移されたという苦い歴史があります。</p>	<p>ご指摘の内容は、伊賀市の歴史文化が成り立つ前提として、重要な事柄であると認識しています。美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	
47	9ページ めざす姿	展示計画	<p>3館合併の姿から、それぞれの機能を十分発揮させるためには伊賀市として「身の丈に合わない」施設が思い浮かびます。リアル展示館だけを前提にすればそのような懸念が浮かびます。そこで、美術品は先に提案されたデジタル美術館構想を取り入れてリアル美術館との融合を考える。歴史資料（絵図や文書など）は「デジタルミュージアム秘蔵の国」との併用をすればリアル展示を部分的に見るより内容を把握できる。いずれも展示スペースを節減でき、かつテレワークでの活用もできて汎用性が高まります。</p>	<p>デジタル技術を駆使することにより、多くの資料を詳細かつ手軽に見ることができ、本物の資料に触れ五感で感じることで生まれる感動は人の成長において重要であると考えます。</p> <p>すべての資料を展示することはスペースや保存の観点から現実的でないことから、デジタル技術を使った展示、実物展示などの美術博物館の展示計画やそれに関連する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	
48	9ページ	展示計画	<p>芭蕉翁、伊賀の文化であれば一緒に忍者の美術、博物館にした方がいいと思います。観光客の人も来てもらい集客巣を伸ばすとなりますと芭蕉さんだけではネームバリューが低いと思います。</p> <p>忍者は世界的にも認知度はありますが、芭蕉さんの認知度ってどのくらいあるのでしょうか。</p> <p>大変申し訳ないですが芭蕉さんの認知度は非常に低いと思います。</p>	<p>「俳句」は「HAIKU」として世界でも広く愛されていて、芭蕉翁の句は世界101言語に訳されています。しかし、芭蕉翁を生み育てた伊賀市の豊かな歴史文化の魅力については、市内はもとより、国内ひいては国外において広く知られていないと考えます。忍者も含めた伊賀のさまざまな歴史や文化財を発信することにより、集客できる施設となるよう努めます。</p>	
49	10ページ 憩い集う場所	建設候補地	<p>確か幼稚園駐車場とつながってますよね？見学者が使用しないよう、また不審者が入るきっかけにならないよう配慮は必要です。</p>	<p>土地利用に関する配置図等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。また、安全管理の面についても、あわせて検討します。</p>	
50	10ページ 芭蕉翁記念館は、1959年に建設された	現芭蕉翁記念館	<p>移転後、どうなるのですか？公園内だから触れないとまさか廃墟のまま放置ですか？入口を封鎖したって、整備しなければ目につきます。観光地としてマイナスになります。</p>	<p>現在の芭蕉翁記念館の価値は十分認識しております。ただし、本構想での検討事項ではないため、現在の建物の利活用等については、別途検討していくこととなります。</p>	
51	10ページ	情報発信	<p>方向性のうち伝える部分のうち松尾芭蕉を産み育てた伊賀市であるが芭蕉の魅力のみに頼ることな発信を期待します。</p>	<p>芭蕉翁を含め、伊賀市の様々な歴史・文化・芸術などの魅力を国内外に向けて積極的かつ効果的に発信する手法を検討します。訪れた多くの人々に感動を与えられる施設をめざします。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
52	10ページ 全体	他施設との連携	そもそも伊賀市は市としての総合的な文化構想が弱いのではないかと感じる頁である。現在進んでいる賑わい回廊にも伝えるや集うの概念はあるはずで、そこと美術館との役割分担が書かれていないし、そもそも分担せずに賑わい回廊で発信できないのか、が理解できない。賑わい回廊の計画には、桃青中学校の位置に民間による（何か）と書かれているが、それが美術館なら初めから美術館と書くべきだろうし、市として（何か）程度で捕らえていた美術館であれば新設が必須なのかが、理解できない。ハイトピアは何なのか？伊賀市は中途半端で効果が見えにくい建物が多いと感じる。	情報発信は、一元化するのではなく様々な拠点から広く発信することが大事だと考えます。にぎわい忍者回廊整備事業と連携して情報発信を行うことで、相乗効果を発揮するよう努めます。	
53	10ページ 地域の魅力を知る機会	展示計画	観光・文化都市の伊賀市として重要なポイントと思います。 来場者が俳句を作って、それを掲示したり、グランプリ作品を決めて特産品を送るなど、まずは俳句に触れ、楽しめる機会を与えられれば良いと思います。	俳句等に興味を抱かせる取り組みは大事であると考えます。ご指摘いただいたご意見は、今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
54	11ページ 地域への愛着と誇りを育むことについて	地域への愛着	芭蕉さんの業績を後世に伝え継承することは、伊賀市の使命であるのは理解しますが、個人の感性や愛着心は、それぞれ別の方を向いていると思います。芭蕉さんを知ったり、美術博物館を訪れることで、伊賀への愛着を持つ子がいるかも知れませんが、何の関心も持たない子もいるし、訪れることもできない、しない子もいるでしょう。 また、同じ伊賀市でも、地域によって温度差があります。 例えば、市街地に生まれ育った多くの人にとって、白鳳城に愛着があったとしても、旧村の人には、お城を失うよりも、地元の学校や神社を失うことを想像する方が辛いと実際に聞きました。 愛着心は、常に身近にあるものの心地よさを一人ひとりの子どもが自ずと感じて育ち、大きくなった時に思い出して、その大切さを意識するようなものだと思います。芭蕉や文化芸術だけに目を向けた、この場合の愛着は、公が決めた価値を個々に植えつけるような違和感を私は持ちます。 芭蕉さんより大事な地元のを失った人たちの気持ちも常に慮る行政であってほしいです。	伊賀市のことを知ってもらい、地域への愛着を持ってもらう取り組みは大事であると考えます。ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
55	11ページ 育む	委員会	歴史や芸術と市民を継続的につなげていく意義と必要性について、具体的に記述してください。	基本構想の8ページ「必要性」の「未来をひらく力、未来を担う子ども達のため」と考えます。ひいては、伊賀市文化振興条例が掲げる目的、基本理念等を成すためと考えます。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
56	11ページ 「伝える」 賑わいの創出 SNS やウェブサイトなど 様々な手段を駆使して、 伊賀市の魅力的な歴史文化を 国内外に広く発信し、伊賀市の 魅力の周知に努めます。そして、 企画展やイベントなどの情報を 発信することで、多くの来訪者 を呼び込み、地域の賑わいの創出 に寄与します。あわせて、伊賀市 の豊かな歴史文化資源、観光資源 などへの誘導を促す取り組みを 行います。 について	情報発信	目的が総花的で中途半端なものになり、 誰にも魅力的でないものになることを 防ぐため、誰（市民／近隣住民／広域） をどのように（ソフト（企画・イベント） で、ハードで）集客するのかを検討の上、 利用者目標を他美術館などを調査・ベンチ マークの上きちんと設定していただきたいです。	ターゲティング及びブランディング等の マーケティング戦略は重要であると認識 しています。今後、基本計画の策定 の中で調査分析等を行いたいと考え ます。	
57	11ページ 美術博物館の方向性について	展示計画	美術館を通じて未来を担う人材を 育てるという取り組みは本当にすば らしいと思いますし、とても楽し みです！ 小学生や中学生などが参加できたり、 楽しめたり、勉強できたりするよう なプログラムがあればいいなと思 います。一度行って終わりではなく、 子どもたちがいつも通いたくなる ような場所にできたらとてもいい と思います。 美術博物館だけにとどまらず、 プラネタリウムみたいなのも併設 できるとすごくいいと思いました。	未来を担う子ども達に、学校では 学べない豊かな心を育む機会や 可能性を広げる取り組みを継続 的に実施する施設をめざします。	
58	11ページ 多様な学び の機会を提供	展示計画	今さら古くさい人形とかを使ったり しないしてほしい。 今の記念館のような殺風景な展 示も惹き付けられない。 俳句という地味なものをどう魅 せるのか？	美術博物館の展示計画やそれに 関連する活動計画等については、 今後、基本計画の策定の中で検 討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
59	11ページ 賑わいの創出の項	他施設との連携	この基本構想は、美術館に限った構想だから賑わいの創出は優先順位は低くて良いと史料する。そのための計画が賑わい回廊であり、それには市の財源は市の規模から考えて相応に投入されている。その投入資金の中で、賑わいが創出できると考えられたから進んでいるわけで、この美術館がにぎわい創出に必要な要素と強調することは、市の賑わい回廊構想が不十分、不適切ということの裏返しの表現であり、削除すべきである。美術品を将来に残すことと、市民が文化財を鑑賞できるという本来の目的から、はみ出すべきではない。ぶれている。	文化芸術基本法には、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との連携を図るよう配慮することと定められています。このことから、にぎわい回廊整備事業とも連携を図り、相乗効果を発揮するよう努めます。	
60	11ページ 美術博物館の方向性のうち、伝えると守る	他施設との連携	データベースを利用したデジタルアーカイブを構築することによって効率化し、持続可能なアーカイブと情報発信を目指す。美術博物館・図書館・歴史資料係等の情報をMLA連携することによって、伊賀の文化力を一元化する。	デジタルアーカイブを利用した情報発信の重要性は認識しております。「デジタルミュージアム秘蔵の国」と美術博物館との連携を促進させ、展示や講座等の連携を行うことも重要であると考えます。今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
61	11ページ 伝える	他施設との連携	忍者・忍術の取り扱い方針について、記述してください。三重大学との連携や忍者博物館の連携はどうされますか。	忍者・忍術に関することは「伊賀流忍者博物館」が担っています。美術博物館の連携等に関する活動計画については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
62	11ページ さまざまなつながりを活かす	他施設との連携	M I H O M U S E U M、佐川美術館 等近隣自治体の美術館・博物館などとの連携は公民・府県の境問わず行ってほしい。 伊賀市所蔵のものの展示だけでなく、常時でなくてよいが地方美術館を巡回するような企画展の巡回などもどのように誘致するのかなども計画・検討してほしい。	基本構想の11ページの記載のとおり、全国の美術館や博物館とのつながりは重要であると考えます。美術博物館の巡回展を含めた展示計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
63	11ページ 伝える	他施設との連携	芭蕉翁や俳句関連の団体・施設等とのつながりについては、どの程度の活動を想定されますか。生誕地として「全国の芭蕉研究や文献保管をリードする」ところまで想定しますか。	現在、芭蕉翁記念館が所蔵する翁の真筆は、全国で上位5番以内と思われる保有数であり、これまで構築してきた俳句関連の団体等との関係性を活かすことと、また、新たな団体等と更なる連携・協働した取り組みを行うことで、基本構想12ページに記載のとおり、芭蕉翁に関する研究と俳文学研究においては全国の中心的存在となることをめざします。	
64	12ページ 守る	企画展示	「芭蕉翁と俳文学研究における全国の中心的存在」とは、どのような存在をイメージしているのか、具体的に記述してください。	芭蕉翁は俳諧を文学まで昇華させ俳聖と呼ばれる俳人です。「松尾芭蕉といえば伊賀市」と認識される存在となることをめざします。12ページ「伊賀の歴史文化に関する研究の拠点となるとともに、」の次に「俳文学研究、とりわけ芭蕉研究においては、「松尾芭蕉といえば伊賀市」と認識される」との一文を設けます。	○
65	12ページ 集う	委員会	市民と美術博物館とのつながり、市民同士の交流、観光客の集客、インバウンド対応の考え方など、さまざまな集いのあり方について、委員会での議論と一定の合意を得て、文章化してください。	美術博物館のさまざまな集いのあり方に関連する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
66	12ページ 憩い集う場所 について	財源	単に「集まる場所＝パブリックスペース」ではなく、集客・消費・収益装置となるような付帯施設等も検討いただきたい 補助金・公費運営の負担のみが毎年積みあがっていくため、民間資本も含め運営費の設計について事業性を検討した内容にする必要があると思います。	持続可能な施設であることが大事であると考えます。 美術博物館の管理運営の手法や管理運営に係る人員配置といった維持管理経費等に係る事項については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
67	12ページ 集う	その他	コンセプトはこれからだと思うが、行けば幸せになれる美術博物館を目指してほしい。 誰一人取り残さない文化振興プランのビジョンを踏襲した計画にしてほしい。少子化の問題、貧富の差が生じている子どもたち、居場所のない、孤立した人たちが、幸せになれる場所にしてください。	ご指摘いただいたご意見は大事なことと考えます。今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
68	12ページ 憩い集う場所の項	施設集約	美術品の展示という概念と、そこに市民が美術品を鑑賞しながら集うという点からは、町中にある適切な外観の空き家を何軒か改築して、そこを美術展示場とする方が、憩い集う場所としてはるかに有効である。伊賀市でも町や保存の為にホテルにしたり取り組みをしていることは理解するので、考え方はそれと同じである。大仰な美術館を建てる必要は無い。また、交流（おそらくは講演会や、発表会等）は、ハイトピア、或いは新しくできる図書館の研修室を活用すべきである。伊賀鉄道で来訪した人に、桃青中後の坂道を登っていただくより、ハイトピア、新図書館はいずれも水平移動するだけで、距離も半分以下であり、利便性を考えてもはるかに優れている。	俳諧や美術品、歴史文化に関する貴重な資料を適切に保存、管理し展示公開するためには、設備の整った施設が必要です。 美術博物館の活動にあたり、ハイトピア伊賀等の周辺施設の利用のあり方については、基本計画等の策定の中で検討します。	
69	12ページ	他の施策	私の実体験として小学生の夏休み毎年宿題として俳句を10句は作らなければなりませんでした。それが6年間、作ってもダメ出しをされ俳句＝苦痛でした。今はどうか分かりませんが40代の私としては自分が払っている税金を使い俳句文化の拠点を作る必要性があるのか疑問です。	子ども達が優れた文化芸術に触れることは、豊かな人間性を育む礎となります。芸術的なもの、俳句を含め様々な地域の歴史文化に触れることで、想像力、表現力、多様性などが育まれます。 楽しく興味を抱かせる取り組みとなるよう学校とも連携します。	
70	13ページ 運営組織	学芸員	必要な人員⇒何名程度か記載	美術博物館に必要な人員数は、今後、活動内容等とあわせて、基本計画の策定の中で検討します。	
71	13ページ 運営形態	管理運営	各地の美術館、博物館の運営形態の紆余曲折を毎日新聞・3月22日付「アートの森」で特集。どの方式も決定策ではないことが分かります。PFI方式は伊賀市の新図書館で採用されたが民間企業には収益性が薄いのでホテルを併設となった。「民間活力の導入」という甘言には基本構想に歌われている「めざす姿」「基本理念」が堅持できるのか疑問があります。またぞろ「泊まれる美術博物館」に流れないよう「めざす姿」「基本理念」が画餅に終わらせない歯止めをかけた計画を立てるべきです。 費用は建設費にとどまらず、複数の学芸員人件費、収蔵庫のランニングコストはもちろん、所蔵品購入予算も必要です。今後の人口減、税収減と反比例した計画に成算が見通せるのか、次の案には盛り込んでもらいたい。	持続可能な施設であることが大事であると考えます。 美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
72	13ページ 運営形態について	管理運営	市の直営での運営をお願いします。	美術博物館の管理運営の手法については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
73	13ページ 運営組織と財源の確保について	管理運営	ボランティアをしてくださる人がいるとしても、その善意に頼るのでなく、対価を託してプロとして働く人々で運営をしてほしいです。 その上で、市内外の専門家や識者や、文化芸術を大切にする人の協力を仰いでください。 どの人にも仕事に見合う待遇になるように、そのための予算は、きちんとつけてください。職場環境をよくして、働く人を大切にすることが、よい施設に繋がり、訪れる人も増えて、よい循環になると思います。 ただし、そのために市民税増税や、他の施設の切り捨てや、福祉サービスや教育予算の低下に繋がらないようにお願いします。 寄付を募ることなどに賛成します。	美術博物館の活動をより充実させるためには、サポートスタッフやボランティアスタッフまたは市内外の博物館や美術館等とのさまざまなつながりが重要であると考えます。 持続可能な施設という視点から、様々な資金調達の方策は必要であると認識しています。協賛金やクラウドファンディングを含め寄付金等による資金調達の方策について、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
74	13ページ 運営形態、財源の確保	管理運営	我々の美術博物館として、構想段階から、市民だけでなく企業への理解を求める説明をしたり、意見を聞いたりして、市全体をあげて運営できる仕組みを作ってはどうか。	美術博物館に賛同していただける方や団体を増やす取り組みについて検討します。	
75	13ページ 財源確保について	財源	財源確保についてですが、クラウドファンディングなどで財源を募ってみてはどうでしょうか？ 芭蕉は全国的に知名度も高く、こういった美術館設営を応援したい個人も多くいると思います。寄付金を募るともありましたが、寄付金はなかなか気軽に参加しづらいところもありますし、クラウドファンディングなどを使えば宣伝にもなるかと思えます。	持続可能な施設という視点から、様々な資金調達の方策は必要であると認識しています。協賛金やクラウドファンディングを含め寄付金等による資金調達の方策について、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
76	13ページ 財源の確保	財源	入場料以外にお土産を購入してもらえるブースを設置、付加価値の高いお土産 お客様が考えた俳句を伊賀焼に刻むなど	ご指摘いただいたご意見は、今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
77	13ページ 財源の確保	財源	多様な財源確保に取り組むことは必要だが、結果的にはほぼ100%市の予算になると考えておくべきだろう。市民にはそう理解しておいてもらわないと、賑わい回廊同様、何時までも禍根を残すことになる。	持続可能な施設という視点から、様々な資金調達の方策は必要であると認識しています。協賛金やクラウドファンディングを含め寄付金等による資金調達の方策について、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
78	13ページ 財源の確保	財源	十分な予算を確保⇒もう少し具体的に必要経費を記載	美術博物館の管理運営に係る経費の概算金額は、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
79	13ページ 財源の確保	財源	どのように財源を確保するのか。どの規模・どれぐらいの金額を想定するのか。コスト抑制のためにどのような方向を模索するのか。検討の方向性について、示してください。	美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
80	13ページ 運営組織・運営形態・財源の確保について	財源	美術館単体で公費を長期間食いつぶす施設にする構想にしないでほしい。 財源の確保に関しては、建設費だけでなく運営費も含め、市の財政負担がどの程度なのか市民に諮ったうえで進めてほしい。 企画・運営に関しても、伊賀市に縁のある民間企業の参画を求めるなど民間の知見を活かし、事業性のある運営計画を検討いただきたい。 後に記述がありますが、候補地が桃青の丘であれば、敷地全体の再開発という観点で付帯する収益施設を入れるなど集客、収益、市民にとってどのような場所になるべきかという観点で美術館の建物と中身だけでない検討が必要だと思います。	社会教育施設として未来を担う人材を育てるというお金には変えられない役割をめざしますが、持続可能な施設であることも大事であると考えます。 美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
81	13ページ 「第3章 美術博物館の管理運営」に項目・内容を追加	他施設との連携	「第3章 美術博物館の管理運営」に次の項目・内容を追加してはどうでしょうか。(総合行政の重視) 箱モノを作るだけでなく、有効に利用されることが重要であるので、教育部門、文化部門だけでなく、市のあらゆる部門が横断的な総合行政として「美術博物館」への来訪者増加に向けて取り組むこととします。とりわけ、伊賀市への来訪者を「美術博物館」へ誘導する観光部門や伊賀上野観光協会・中心市街地が伊賀鉄道線路で分断されている現状を打破するために「美術博物館」と「忍者体験施設」「ハイトピア伊賀」などを結ぶペDESTリアンデッキを検討する建設部門・高齢者や障がい者など誰もが訪れやすい中心市街地エリアにするためにユニバーサルデザインの理念を取り入れる福祉部門などとの連携強化を図ることとします。	ご指摘のとおり、美術博物館の機能活動をより充実させるためには、庁内の横断的なつながりも含め、市内外の文化観光施設団体などとのさまざまなつながりが重要であると考えます。ご指摘いただいたご意見は、今後、基本計画策定の参考意見とさせていただきます。	
82	14ページ 美術博物館の立地場所	建設候補地	どのような展示内容の、どのような面積のものかも不明な段階で、桃青中学校跡への新設ありきであるかのように話が進んでいるのは、市民の疑念を生みます。この段階で、一カ所に結論を誘導するような記述は賛成できません。	建設候補地については、基本構想の14ページに記載の条件を踏まえ、伊賀市美術博物館建設準備委員会で検討した結果、「桃青中学校跡」を優位とする結論づけられました。	
83	14ページ アクセス・連携の利便性について	動線	「回遊性に配慮し、他の施設と連携しやすく、誘客につながる取り組みを図り」としていますが、伊賀文化産業城・俳聖殿のある上野公園は国指定史跡「上野城跡」であり、史跡保護のため開発等の現状変更が制限されています。旧桃青中学校跡地から陸橋をかける等の開発行為を行わないように配慮をお願いします。	桃青中学校跡に建設となった場合は、上野公園をはじめとする周辺施設とのアクセス動線について、今後、基本計画の策定の中で検討します。また、施設の整備と史跡の保護について、十分な調整を行います。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
84	14ページ	動線	<p>立地条件について、立地場所が上野城近くにこだわるのであれば、すべての人が行きやすいように設備面で十分な予算をつけてほしい。段差をなくす、急な坂道は電気自動車もしくはエスカレーターをつけるなど。</p> <p>そして、人間の発達段階も考慮した展示場所にしてほしい。</p> <p>明るい自然光が当たる場所で絵本を読むのが幼児にとって大切だと思うが、こどもの本コーナーを地下に計画していると、図書館構想で聞いている。ホテルと隣接させたいという、大人目線の考えから、防犯を考えて…とそうなったのかもしれないが、集客ばかり考えているとしか思えず、市民全体の利用を重視するなら、ホテルと隣接させてというのは、今言っても遅いとおかしいと思う。</p> <p>美術館と離れた話をしたが、いろいろな美術館を知ってる者としては、市民目線の美術館になるために優れた学芸員や有識者の意見を具体的に聞いて利用しやすい美術館にしてほしい。</p>	<p>ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすいアクセス動線について、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p> <p>本構想並びに基本計画等の策定は、美術館や博物館の運営に知見のある有識者をはじめとする伊賀市美術博物館建設準備委員会において検討しています。</p>	
85	14ページ 立地場所	動線	<p>選択肢の中では、旧桃青中学校跡地が妥当だと思います。しかし、あの坂を上れない人が一定の割合であると予測できる。補助手段として電動カート運行、岐阜県立博物館（関市）のミニモノレールのようなシステムを設置してユニバーサルプランを重視して進めるべきだと思います。</p> <p>また、新芭蕉記念館を含む施設とするのなら、現図書館に芭蕉翁記念館を移すとした計画は白紙となります。では、現図書館の活用はこの計画と関連付けて機能分担を考えるべきです。</p>	<p>ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすいアクセス動線等について、ご指摘いただいたご意見も参考にし、今後、基本計画策定の中で検討します。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
86	14ページ	動線	<p>市街地を中心に考えたり、観光客目線だけでなく、伊賀市の隅々のどの人々も訪れやすい発想をお願いします。</p> <p>車社会ですが、自分で移動できず、公共交通機関から遠のく人々もいます。</p> <p>土日祝日や天神祭だけでも広く巡回バスを出したり、毎年一度くらい一定期間市民を無料招待をしたり、市民が自由に訪れやすい環境づくりを積極的にしてほしいです。</p> <p>美術博物館だけでなく他の施設や、伊賀線や三重交通バスとの連携なども工夫して、公共交通や文化施設の存続にも繋げてください。</p> <p>私は、伊賀が大好きで、自慢に思っています。自然物も人工物もどちらも、先人が遺してくれたよいものが、これ以上一部の考えや、経済最優先で、熟慮もなく、むやみに壊されたり、そこに住む人々が不満に思う形になっていくのは、市にとっても、市民一人ひとりにとってもマイナスだと思っています。失うものは、取り戻せないものばかりです。</p> <p>恐らくこの計画も、他の事業と同様に、多くの市民の意見は聞かれないまま、それよりも、多くの市民が知らなかったり、関心を持たなかったりする中で、進んでいくのだと思います。</p> <p>でも、行政の方々は、市民を思い、懸命に仕事をしてくださっていると思っています。</p> <p>時代をみることは大切ですが、どうか、時代に流されず、今の市民がつくってよかったと、未来の市民があつてよかったと、思える美術博物館を遺してください。それくらい重大な事業だと思います。よろしく願いいたします。</p>	<p>誰もが気軽に訪れることができる施設とするためには、公共交通機関や道路を使ってアクセスしやすい場所にあることが重要であると考えます。桃青中学校跡に建設となった場合は、上野公園をはじめとする周辺施設とのアクセス動線について、指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画策定の中で検討します。</p>	
87	14ページ 建設候補地 桃青の丘について	動線	<p>廃校あとの利活用ということで、図書館跡地よりも場所の制約が少なく、柔軟性の高い計画が可能だと思います。</p> <p>だからこそですが、建物だけでなく、敷地や周辺施設との導線も踏まえ市民にとっても思い入れのある桃青の丘が、市民にとって、将来の子供たちにとってどのような場所になるべきかというところから検討してほしいと思いました。</p> <p>(今の幼稚園はどうなるのでしょうか?)</p>	<p>美術博物館は、誰もが気軽に訪れることができ、居心地の良い場所となることをめざします。</p> <p>桃青中学校跡に建設となった場合は、上野公園をはじめとする周辺施設とのアクセス動線について、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	
88	14ページ 設置場所	動線	<p>桃青中学跡地は高台にあるので上野公園から橋渡しが必要と思う。</p>	<p>桃青中学校跡に建設となった場合は、上野公園をはじめとする周辺施設とのアクセス動線について、今後、基本計画の策定の中で検討します。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
89	14ページ 美術館の立地条件について	保存管理	立地場所は適していると思うが、美術館は見せる場所より、所蔵品管理施設面積が倍ほど必要であると考え。その場所はきちんと確保されているのか？ そちらを充実させることが、今後の美術館を長く続けていくには不可欠であると考えるので、展示場所ばかりを充実させる美術館にならないように、設計から学芸員や美術館設立に関わってきた方の具体的な意見を聞いたうえですすめて頂きたい。 また、あやまさんさんホールは、倉庫になるとの話であるが、道の駅に近い立地条件から、伊賀焼焼き美術館、資料館にすることはできないのか？施設的に展示スペースにできる部屋もあるし、所蔵庫もスタインウェイピアノを保管してあった場所？αでリノベーションできると考える。 道の駅に近いため、集客も見込まれ伊賀焼文化を発信しやすいと考える。 あやま文化センターさんさんホールの倉庫化を、伊賀焼き発信基地にできないか？ 伝統産業会館があるのもわかるが、あやまの方が集客はいいと思う。	ご指摘のとおり、展示スペースより収蔵スペースの方が広い面積が必要であると認識しています。収蔵庫の規模等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
90	15ページ 建設候補地	建設候補地	桃青中学校跡案は、過去に、文化庁の妨害により、上野公園との間に橋を架けられないことから断念されたはずですが、その後に進展があったのでしょうか？架橋はあきらめたのでしょうか？上野公園の敷地にかからないような工法での架橋はできませんか？橋を架ける代わりに、上野公園との間にZipparや、ロープウェイを通すのはどうでしょうか？	国史跡となっている上野公園と建設候補地の桃青中学校跡とを結ぶ歩道橋の設置については、過去、文化庁と協議を行いました。認められませんでした。なお、上野公園をはじめとする周辺施設とのアクセス動線について、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
91	15ページ 建設候補地について	建設候補地	建設候補地とされる旧桃青中学校跡地は埋蔵文化財包蔵地「上野城跡」「伊予之丸古墳群」にあたり、事前に試掘を行う等して埋蔵文化財の保護に万全を期してください。	ご指摘のとおり、桃青中学校跡は伊予之丸古墳群にあたることから、桃青中学校跡に建設するとなった場合は、埋蔵文化財の保護等に万全を期します。	
92	15ページ 建設候補地の都市計画法に定める用途地域の変更手続きが必要です。	建設候補地	手続き事にまた、違う場所の方面がいいのでは、という意見が出てきて郊外えと、言う事の無いようにしてくださいよ	建設候補地については、伊賀市美術博物館建設準備委員会で検討した結果、「桃青中学校跡」を優位とするとの結論にいたったことから、この意見は重要であると考えます。	
93	15ページ 建設候補地	現芭蕉翁記念館	現芭蕉翁記念館はどうなるのか。オーベルージュに使うなどこの施設も取り込んだ計画をしてほしい。	現在の芭蕉翁記念館の建造物として価値は十分認識しております。ただし、本構想での検討事項ではないため、現在の建物の利活用等については、別途検討していくこととなります。	
94	15ページ 財源の確保について	財源	寄付金や協賛金はあくまでも副産物であって、それに頼らず、何人集客したら維持できるのかを目標立てして運営しないと、続かないし魅力も生まれない。 伊賀市の観光ビジネスの一環として運営してほしい。 赤字だから公費補填するようならやめておいた方がよい。	持続可能な施設という視点から、様々な資金調達の方策は必要であると認識しています。協賛金やクラウドファンディングを含め寄付金等による資金調達の方策について、今後、基本計画の策定の中で検討します。 収益性を考慮することは当然ですが、美術博物館の建設・運営は社会教育施設として未来への投資でもあります。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
95	15ページ 建設候補地	他施設との連携	中心市街地に建設すると仮定したとき、周辺施設との連携について、具体的に考えておくべきです。城・俳聖殿・忍者博物館との連携、移転後の現・芭蕉翁記念館建物の今後の利用あるいは取り壊し、老朽化しているだんじり会館機能と統合すべきか、各町のだんじり倉に保管されている美術品の最適な管理、鍵屋辻の資料館や数馬茶屋のあり方、閉鎖されている古陶館をどうするのか、移転後の旧庁舎内上野図書館との連携、新図書館開館により空き家となる図書館建物をどうするか、旧北泉邸の活用などは、美術博物館のあり方と一体的に考えるべきです。一点ずつ突破していくと、将来的な不整合や市民の不満を引き起こします。	美術博物館の連携に関する活動計画等については、今後、基本計画の策定の中で検討します。ご指摘いただいたご意見は、伊賀市中心市街地活性化計画、伊賀市歴史的風致維持向上計画、伊賀市文化財保存活用地域計画や伊賀市都市マスタープラン等で検討されています。今後、これらの計画と情報共有しながら進めていきます。	
96	15ページ 建設候補地の市有地で～ 桃青中学跡と図書館を抽出しました。について	動線	十分な敷地面積と災害が少ないの点で優位となっているが、高台に有ることを考えると年寄りその他のは避けたい。図書館の地の方が立派さも含め集いやすいと思う。	アクセス道路については、桃青の丘幼稚園側の道路を活用することも含め、今後、基本計画の策定の中で検討します。 なお、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。	
97	15ページ 憩い集う場所	動線	桃青中学につながる銀杏並木はとても綺麗です。ぜひ残して活用してください。	アクセス道路については、桃青の丘幼稚園側の道路を活用することも含め、ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画の策定の中で検討します。	
98	15ページ 建設候補地は「桃青中学校跡」が優位	動線	丘の上に有りアクセスに十分留意する必要がある。とりわけ誰でもが自由に利用できることが条件で当然「ユニバーサルデザイン」に配慮した施設とするべきでしょう。	アクセス道路については、桃青の丘幼稚園側の道路を活用することも含め、今後、基本計画の策定の中で検討します。なお、ユニバーサルデザインに配慮した施設とします。	
99	15ページ ※地図の表記	反映	伊賀流忍者博物→伊賀流忍者博物館に	「伊賀流忍者博物館」に訂正します。	○
100	16ページ 体制について	学芸員	「俳諧関係以外では学芸員も確保されていません」という点について、早期に専門職員・学芸員を採用するよう努めてください。	歴史文化に関わる各種資料を適切に保存管理し、調査研究をして活用していくためには、学芸員の配置は欠くことのできない存在であると認識しています。そのため、早期に学芸員を確保できるよう努めます。	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
101	16ページ 今後の進め方／終わりに	管理運営	<p>全体を通じて伊賀市において、行政としての課題としては文化財の保管・保全庫が必要という点が解決できれば最低限よいという印象を受けました。</p> <p>そのうえで、桃青の丘という市民にとっても思い入れがあり、ある程度の敷地が確保できる場所を再開発するのであればこの場所でどのように市民や来訪者が過ごしてほしいか、といった少し視点を広げ、美術館・博物館をどのような集客施設として運営すべきかは実際に運営する民間資本が検討したほうがよいと思います。</p> <p>上野公園との連動なども考慮するのであればランドスケープなどを専門家を入れた検討をしてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>検討においては公有地の利用であることなどから、美術館建設という建物だけの議論にとどまらず市内の関連部署も連動し「桃青の丘」を市民にとって誇りとなりよく訪れたい場所にすることを検討すべきだと思いました。市民として、検討の際にお役に立てることがあれば参加したいです。</p>	<p>美術博物館の機能活動をより充実させるためには、市内の横断的なつながりも含め、市内外の文化観光施設団体などとのさまざまなつながりが重要であると考えます。また、美術博物館の管理運営の手法、財源を含めた事業費、さらには収蔵庫の規模、展示計画、管理運営に係る人員配置、維持管理経費等については、ご指摘いただいたご意見も参考にして、今後、基本計画策定の中で検討します。</p>	
102	16ページ 今後の進め方	その他	<p>一刻も早く事業を進めてください。</p> <p>楽しい夢を見せてくれましても、高齢者にとっては、果たして完成した「美術博物館」見ることができるか、不安でなりません。</p>	<p>貴重な文化資料を適切に保管できるよう早期に進めます。</p>	
103	16ページ 第5章今後の進め方に	市民参加	<p>美術博物館の必要性について、市民合意を得ることが必要です。</p> <p>現状はほとんどの市民が建設計画を知らないか、知っていても「また市長が無駄なものを作るのか」という感想を持っているように感じています。無駄なものを建設したと、美術博物館にマイナスなイメージが付かないように、できる限り多くの市民の理解と納得を得るといった意思表示と、具体的取り組みを明記してください。</p>	<p>市民との合意形成のプロセスについては、自治基本条例に規定する「市民参加の権利と責務」、「市民参加の制度保障」を遵守し計画等の策定に努めています。16ページ「今後の進め方」の次に「幅広い世代の市民が気軽に集える施設となるよう、この事業は、多くの市民の意見や未来への投資という観点から、子どもや若者の意見を取り入れる機会を設けながら進めていきます。」との一文を設けます。</p>	○
104	16ページ スケジュール表	スケジュール	<p>2024年度から基本計画の策定に入るのは一年早い。それは基本構想の公開と、それに対するパブリックコメントを活かして、基本構想を見直す必要があり、それを2024年度に行うべきと考えるからである。美術館構想を推進したい方々の熱意は分かるが、基本構想自体が伊賀市の未来にフィットしていなければ、投入された税金と、労力の全てが無駄になる。基本構想の具現化が基本計画なので、基本構想を徹底的に議論することが、最終的には最適解により近い物が出来上がると考える。すなわちこのスケジュールは最低一年の後ろ倒しの見直しが必要と考える。</p>	<p>パブリックコメントへの対応については、伊賀市美術博物館建設準備委員会での検討を踏まえ、基本構想の策定を進めます。</p>	
105	今後の進め方	その他	<p>基本計画から実施設計までのプロセスにおいて、特に芭蕉翁に関する部分は世界的にも注目を集めるものと考えられる。そのことを考えると建築設計者については日本のみならず世界に目を向けたコンペティションによるべきと考える。その効果は多大なものになるでしょう。</p>	<p>ご指摘いただいたご意見は、今後、基本設計や実施設計の参考意見とさせていただきます。</p>	

番号	掲載箇所 (原文のまま)	項目	ご意見 (原文のまま)	意見への対応	反映
106	16ページ 資料の保存・管理について	保存管理	「資料を保存・管理するうえで最も重要となる収蔵庫がない」という点について、重要文化財「更科紀行 芭蕉自筆稿本」等の紙資料も保管できるよう温湿度管理が可能な収蔵庫の設置を検討ください。	俳諧資料に限らず、多くの歴史文化に関連する資料は、木や紙など自然由来の素材であり、それぞれの材質の特性に対応した保存上の対策や環境の確保が不可欠です。そのため、適切な保存環境を確保できる施設となるよう、今後、基本計画の策定の中で検討します。	